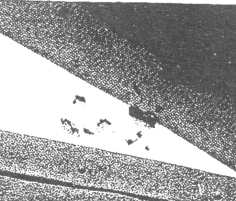


DVD上映会 開催

戦争中「本」を守った人々がいた。



この素晴らしい実話を
語り継がなければいけない。

1944年都立日比谷図書館長に就任した中田邦造は、蔵書26万冊の一部を奥多摩の多西村(現あきる野市)と埼玉県志紀町(現志木市)に疎開することを検討した。しかし、それを運ぶ人手も戦地に取りられ、当時の都立一中生(現日比谷高校生)たち26名が動員された。さらに中田は、この際、民間人が蒐集している貴重な本も買い上げ、疎開させるべきだと提案、加賀豊三郎、諸橋轍次、井上哲次郎などから貴重本を買い上げ疎開させた。やがて運命の1945年(昭和20年)5月25日を日比谷図書館は迎える。この大空襲によって蔵書209,040冊は、図書館と運命をともにした。だが、中田が買い上げた民間貴重書と蔵書の一部を併せたおよそ40万冊の本は、奥多摩と埼玉県志木市の蔵の中で助かったのである。

特典映像：1. 本編の予告 2. 第2弾「ウォーナーの謎のリスト」予告編

証言者：阿刀田高、早乙女勝元ほか ナレーション：長塚京三 声：金井 節、京井 幸、黒岩拓朗、名取誠之、寺澤美央
監督・編集：金高謙二

プロデューサー：森島恒行、小田部優 撮影・録音：金高謙二 花井ひろみ 音楽：ブッチーニ・歌劇「ジャンニ・スキッキ」より私のお父さんほか
製作協力：ディレクターズシステム 製作：シネマボックス 宣伝プロデューサー：新田道昭 パブリシティ：キャンボンボール
原作：「疎開した四〇万冊の図書」幻戯書房刊 金高謙二・著 協力：千代田区立日比谷図書館文化会館 2013年/カラー作品/102分

おい図書館

No.207

TEL 047-311-0886

代表 発行
青木 和子
松本 牧子
104/416

①疎開した40万冊の図書

本を守ろう。文化を残そうとい
う熱い思いがプロジェクトを完遂
させた、させてくれたのたと知り
ました。中田邦造さんについて免
強してみようと思います。
取材に協力して下さいます。

安藤じゅん子



2019年6月1日(土)に「疎開した40万冊の図書」を、7月27日(土)に「ウォーナーの謎のリスト」を、松戸市子ども読書推進センターで上映会を開催しました。
ご参加の皆様から寄せて頂いた感想を掲載致します。
尚 DVDの紹介文の掲載については、製作会社からの快諾を頂きました。感謝申し上げます。

の方々の声から、日本が被災した戦争の戦禍にみまわれたのだということをいしひしと感じ、時代を越えて人々の手を通して、今我々がその姿(本)に出逢える奇跡をしっかりと伝えて、語り継いでいかなくてはいけないと強く感じました。

我が国にとって70余年前の出来事が、世界を見渡せば今世紀にも起きている。戦争の無い世界の平和を祈るすにはいられませんか。

3.11東日本大震災の後、息子が読んだ本を仙台へ送った事を思い出しました。様々な角度から本の魅力を伝えて頂き、ありがとうございました。今後共「おい図書館」の活動を応援します。宜しくお願いします。

⑩高田馬場の社会福祉法人日本点字図書館を先日見学しました。点字本の疎解について知る機会を得ました。



平淑美

子どもの頃から本が好きでした。近所にある練馬図書館に、散歩がてら父に連れて行かれて親しんでいました。大人になって、図書館の仕事につけた事を嬉しく思っていました。

今日の映像を見せて頂いて、本(文化財)の重要性を重く考えていた方々がおられた事を、とてもありがたく感じました。知りたいと思う時に知る事が出来る書物がある幸せ! ようし層、図書館(本)の重要性を感じています。



吉野信次

戦争中、「本」を守った人々がいたと、少し聞いたことがありました。その努力は途方もないエネルギーだったことを知りました。



増田薫

極限状態になると、人はすごい事を考えるものだと思っています。母方の祖母は、蔵前通りに爆弾が落ちて大きな穴が開いた時、とっさに紙とエンピツを持ってスリッパをしたそうです。すると、憲兵にスパイを疑われ、1ヶ月帰って来なかったと母が話してくれました。

陸前高田では、知り合いの気仙大工(岩手で伝統工法を継承している大工の総称)が、3.11で古い文献が相当流出したのが「財産」の大きな損失だとくやしがっていました。でも、これは災害。戦争は人災です。「戦争を止める」として文化や貴重な文献を守ることができない!...重い言葉でした。



志村宏子

本は宝物ですね。戦火を逃れた貴重な書物。一方

で焼失した書物。3.11の津波で失った書物もありましたが、その時に行われた全国からの絵本のリレーは感動しました。心の栄養は人間の権利です。

戦争には反対です。やはり結論はそれですね。

松戸にも心安らぐ図書館が待ち遠しいです。

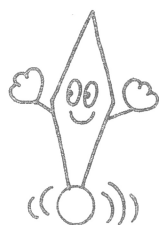
とても良いドキュメンタリーでした。

荒木美都子

戦時中に、たくさんの方の手によって守られた図書があったのですね。

知らなかったことを知ることができました。

ありがとうございました。



ウォーナーの謎のリスト

第二次世界大戦の終結、日本の文化財を救おうとした日本人、米国人美術家アグネス・ウォーナーもその1人。
日本において空襲すべきでない文化財のリスト「ウォーナー・リスト」を作成した人物である。リストには、国宝から個人所蔵の宝まで150を超える日本の文化財が記されている。これだけのリストを外国人がなぜ作れたのか？そこには、日本人の有力な力があった。イェール大学の教授であった朝河貫一。彼こそがウォーナー・リストに多大な影響を与えた日本人である。また、ウォーナーと朝河は、文化財を保護する目的と人道主義の立場から、太平洋戦争を回避する工作を試みた。それは、大統領から天皇に親電を送るという大胆な発想だった。今残る手紙から、100万分の1の可能性に賭けた男たちの勇気と熱意が紐解ける。また、世界最大規模を誇る古書店街神田神保町。実はこの一画は、太平洋戦争中空襲を受けなかった。そこには、日本文学を愛したロシア人の存在が大きく関与されたと言われている。世界各国に残る新資料と30人を超える証言によって今まで語られることのなかった事実を伝える。
この映画は、第二次世界大戦に隠された知られざる歴史巨編である。

キャスト・スタッフ

証言者：小泉晋也 色川大吉 山口静一 増山太郎 矢吹晋 早乙女勝元 阿刀田高 今まど子 八木壮一
Yukiö Eippit Patricia J. Graham Caleb Warner John W. Dower Ronald H. Spector Danielle Elisseeff Daniel Botsman 他
出演者：志賀廣太郎(ナレーター・朝河貫一) James Konicek(ウォーナー) 田邊邦夫(朝河貫一の声) 市川和也(K中尉) 伊藤圭太(藤井上等整備兵)
監督・編集：金高謙二 プロデューサー：森島恒行 花井ひろみ 金高謙二
協力プロデューサー：池原麻里子 撮影：Ken Washington 録音：Shiromi
音楽：小松真理 ドラマ照明：小西俊雄 監音：岩波昌志 宣伝デザイン：市川千鶴子
エグゼクティブプロデューサー：長谷みどり 長谷好男
製作：シネマボックス 文化を守る映画製作委員会 制作協力：神田古書店連盟



文化を守る映画製作委員会 cinemabox presents 2016 © cinemabox allrights reserved.

2016年/カラー作品/116分

特典映像 1.本編の予告 2.日本がアジア諸国で行った行為

②ウォーナーの謎のリスト

~~~~~

平淑美

とても深い映像で、何と云って  
いかわかりませんが、日本を大変  
よく知って親しんだ方々が、日本  
の文化財を守って下さったのだと  
知りました。知らない事はかりで  
したので、歴史の一端を知る事が  
出来て良かったです。

焼け野原になつた中で残った建物  
があつたという事は、戦火から  
守ろうという考えを携えている人  
がいたという事です。

文化財は、長い歴史の中で残っ  
て来た人類の宝です。それを引き  
継がなくては いけませんね。

~~~~~

ダス 和ス美子

貴重な映像を、ありがとうございます。
「20世紀は戦争の世紀！」

いつになつたら、人は武器を
持たなくなるのだろうか？

「朝河貫一氏の存在も金く
知りませんでした。」セルゲイ・
エリセーエフツ、ラングドン・
ウォーナー等々、貴重な文献・
文化を守るために貢献された方
々がいらしたのですね。
図書館や、本の大切さも再認
しました。

~~~~~

荒木美津子

知らない情報がいっぱい詰ま  
ったDVDで、とても勉強になりま  
した。

「記録しておく」というのは、  
すごいことですね。

戦争を止めることが出来な  
かったのは、残念としか言い  
様がありませんか……

~~~~~

古宮保子

戦争を体験している者として、

身を乗り出して見ました。

私は、昭和30年代前半を駿河台
で過ごしました。友人に、古書店
を経営している者もいました。
多くの知らない事をあらため
て知ることが出来ました。
ありがとうございます。

~~~~~

古関とし子

全体を見て戦争は絶対に避け  
なければいけないと強く思った。  
文化を愛する多くの人々の力を  
あらためて知ることが出来ました。  
今回初めて知ることが出来た人  
もあり、感謝します。

~~~~~

青木 和子

神田を代表する古書店に勤務し
ていた藤井正さんは入隊先で、本
好きで神保野に通ったという若い
将校に出逢い、後年、彼とのエピン
ドを「私の古本人生」に記した。
機会があれば、読んでみたい。